

うに元気になり発作がまったく起らなくなった。同処方 30 日分投与後、
廃薬とした。

【考察】

43 歳時の子宮摘出以来、腎陰陽両虚・肝腎同源で肝陰虚・肝陽上亢もあつた。X 年 4 月 4 日、52 歳で受診したとき、生活は慢性的な過度のストレス状態にあり肝鬱気逆・肝旺擾心で、諸症状が出現し、炙甘草湯+冠心Ⅱ号方、補陽還五湯加黄連解毒湯は無効であった。X 年 5 月 1 日に、補中益気湯エキス+スッポン末で完治状態になったのは、補中益気湯で脾気を補って肝旺乘脾を抑えて疏肝を助け、さらにスッポン末によって肝腎を補ったことで、肝陰が補われ、肝陽上亢・肝気上逆・肝旺擾心が消失したためと考えられる。X 年 8 月 18 日に再発の前触れを感じ、さらに柴胡加竜骨牡蛎湯を追加併用することによって、疏肝解鬱・瀉火・安神が追加され、肝鬱気逆・肝旺擾心も著減した結果、完治状態となった。子宮全摘が遠因を作ったと考察する。

3-6 肝脾同病

肝の疏泄機能は気血津液の流通と調節に影響を与え、脾の運化機能は気血津液の生化と輸布に影響を与えるため、気血津液は肝・脾と密接に関連するといえる。両臓に病変が発生すると様々な病態を形成する。たとえば、ストレスが続き、肝気鬱結（肝鬱）・情緒不安定・易怒の状態が改善することなく継続すると、肝気が横逆して消化器症状が出現し、いわゆる「肝（木）旺乘脾（土）」を呈する。

現代医学的には、機能性胃腸症状などと呼ばれる神経性胃炎が肝脾同病にあたる。また、肝硬変患者が出血性胃炎や胃・十二指腸潰瘍を合併することもよく経験するところである。

症例 1

[要旨] 自家中毒で腹痛下痢を来した後から、頻繁に気持ちが悪いと訴える子供が、抑肝散加陳皮半夏で訴えが消失。

【患者】 6歳，女児，115cm，19kg。

【初診】 X年2月4日

【主訴】 容易に不快感（吐き気？）を来す。

【現病歴】 もともと丈夫で食欲があり，外交的で物怖じしない。胃は丈夫で間食の多い子供であった。6歳2カ月のとき自家中毒で嘔吐・腹痛を起こし，点滴にて治癒した。それ以来，頻回に気持ちが悪いと言う（恐らく吐気：このときの記憶がトラウマとなり，ちょっとしたストレスでこれを思い出し，肝鬱を引き起こし，肝気犯胃で嘔気を催したと推定）。また気分転換させるとすぐに消失していた。温かいものを好む，不安になりやすい，環境の変化を感じやすくストレスと感じることは多いように見受けられる。大便是固く便秘になりやすい。

【既往歴】 6歳2カ月のときに自家中毒症によって嘔吐・下痢を来した。環境の変化にとっても敏感で，感情のコントロールが効かない。問題なければとても元気である。

【家族歴】 母親：不眠症で薬を服用。

【舌所見】 舌質淡紅，舌苔白微黄，舌下静脈軽度怒脹。

【脈所見】 稍細，脈拍 80/分。

【症候分析】

- 不安になりやすい・環境の変化を感じやすく，ストレスと感じることは多いように見受けられる——肝鬱から心神不寧（傾向）（肝①-1）
- 頻回に気持ちが悪いと言う——肝気犯胃（肝①-2）
- 気分転換させるとすぐに改善——肝鬱の消失に引き続き肝気犯胃の消失
- 大便是固く便秘になりやすい——気滯腸阻*（肝①-2）*肝鬱気滯から肝旺乗脾となり脾の気滯が起り便秘となる。
- 温かいものを好む——脾陽虚（脾③-1）
- 舌質淡紅，舌苔白微黄，舌下静脈稍怒脹——血瘀

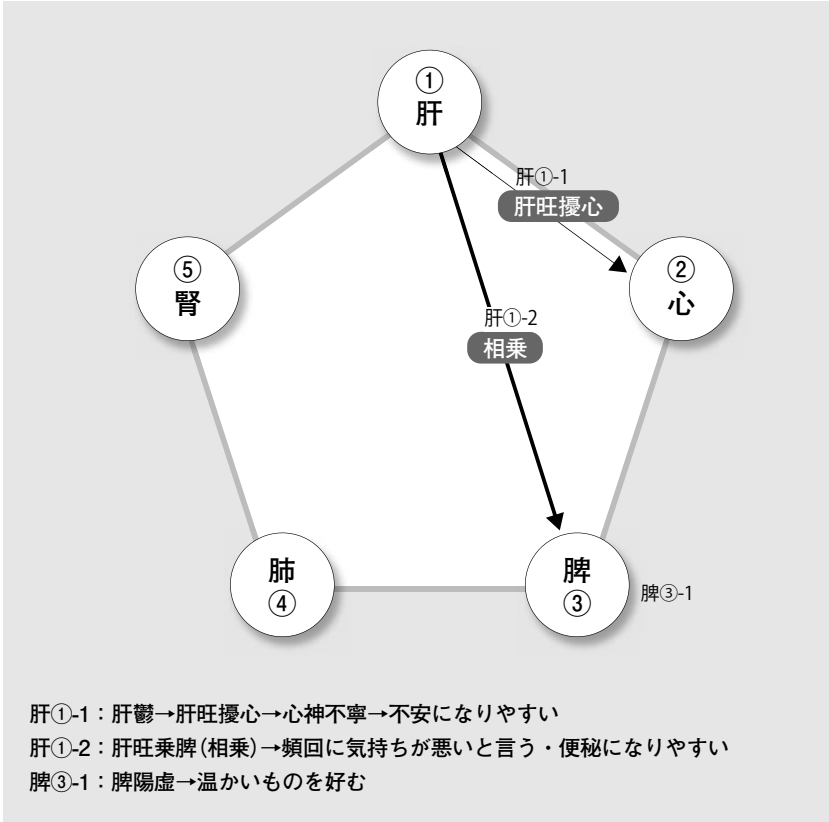
【弁証】 肝旺乗脾・心神不寧

【治法】 疏肝健脾・鎮驚寧神

【処方】

- 処方①：抑肝散加陳皮半夏（ツムラ）4.5g/日

3-6 肝脾同病 症例 1 6 歳女児



● 処方②：桂枝加竜骨牡蛎湯（ツムラ）1.5g + スッポン末（堀江生薬）1g

【経過】 処方①を投与して2週間後には主訴は軽減し、2カ月後には消失、廃薬とした。しかし、以前から感情のコントロールが利かず、母親に対し泣き出すと止まらないのは変わらなかった。これは生来からある心神不寧の傾向が治癒していないことを示す。X年4月3日、処方②を処方して2週間後には改善し、4カ月で無症状となり廃薬とした。

【考察】

自家中毒による嘔吐・腹痛の記憶がトラウマとなり、ストレスを感じるたびに容易に自家中毒時を思い出し、気持ち悪い（吐き気：肝旺乗脾）と

感じるようになったと推察した。抑肝散加陳皮半夏の平肝熄風・疏肝健脾ですみやかに軽減し、2カ月後には完全に消失した。恐らくちょっとした記憶がストレスになったものであるため、すみやかな改善がみられたものと考察した。

しかし、本処方も、泣き出すと止まらないという生来ある心神不寧の傾向には無効であった。そこで桂枝加竜骨牡蛎湯で安神柔肝し、スッポン末の滋腎補精で肝腎同源から補肝・柔肝を助け、母子関係によって心への安神効果も補助した結果、感情のコントロール不良も消失した。

症例 2

【要旨】 娘が遠方に嫁いだことがストレスとなり、肝旺乗脾が起こり過敏性腸症候群を発症したが、芎歸調血飲で疏肝補脾、半夏瀉心湯で補脾を助けてすみやかに消失した。

【患者】 58歳，女性，149cm，51kg。

【初診】 X年5月7日

【主訴】 便秘・下痢の繰り返し。胃の膨満感。下腹部痛。

【現病歴】 1年前に娘が遠方に嫁いだ後から体調が悪くなり、便秘や軟便を繰り返すようになった。胃・腹の膨満感，下腹部のガス充満感とともに流るような痛みが続く。食欲はある。子宮筋腫がある。突然肩凝りが悪化・頭痛が起きてくる，この状態は一度出現すると1週間続く。ゲップはない。口内乾燥感があり，熱いお茶をよく飲む・口渇はない・冷たいものは飲みたくない。胃腸科を受診し，過敏性腸症候群と診断された。夜間尿1～2回，以前から足は冷たいが，就寝後異様な足先の冷感がある。ときおり腰痛・耳鳴りが起きる。4年前に閉経したにもかかわらず，最近は就寝後に，ときおりほてり感が数分続く。寝付きはよいが多夢。顔色が白い。

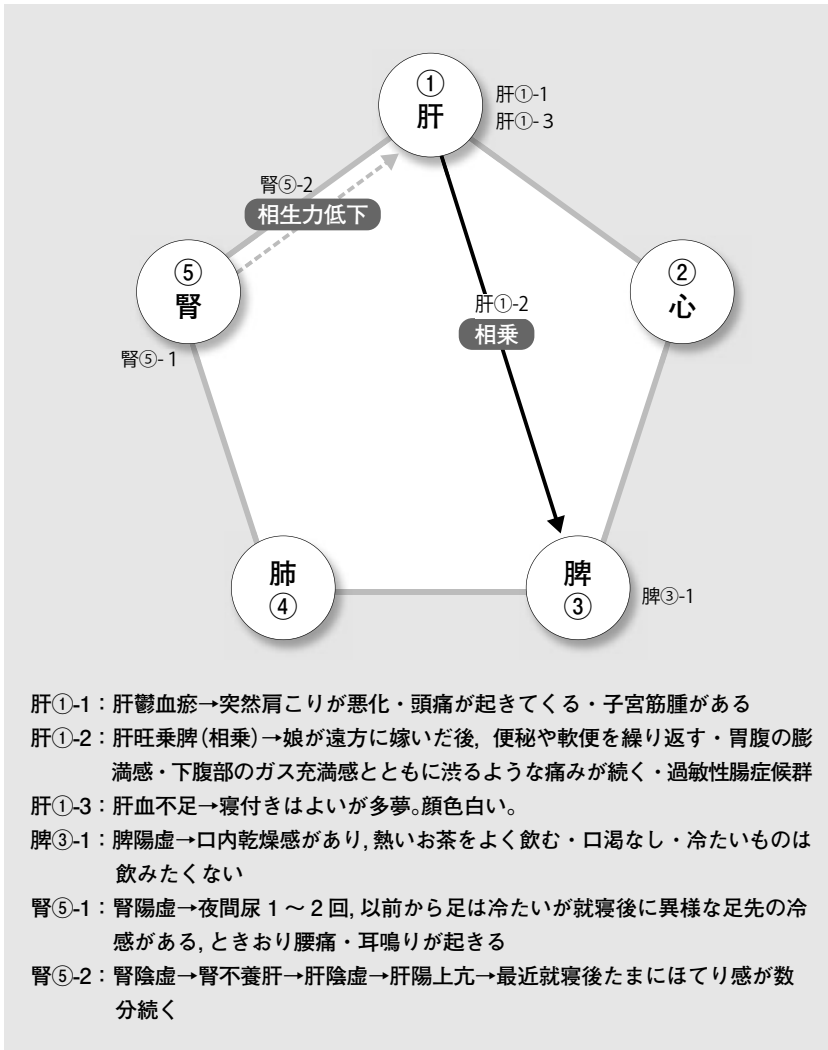
【既往歴】 昔から，春先に花粉症が出て耳鼻科で薬をもらっている。疲れると，肩凝り・頭痛が起こってくる。胃腸は弱いほうである。

【家族歴】 父：B型肝炎による肝硬変で70歳で死亡。

【舌所見】 舌質稍暗紅，齒痕，舌苔白微黄。

【脈所見】 稍滑弦，脈拍72/分，血圧138/86mmHg。

3-6 肝脾同病 症例2 58歳女性



【症候分析】

- 娘が遠方に嫁いだ後，便秘や軟便を繰り返す，胃・腹の膨満感，下腹部のガス充満感とともに渋るような痛みが続く，過敏性腸症候群の診断——肝旺乗脾（肝①-2）

- 突然肩凝りが悪化・頭痛が起こってくる・子宮筋腫がある——肝鬱血瘀（肝①-1）
- 熱いお茶をよく飲む・口渇はない・冷たいものは飲みたくない——脾虚生寒（脾陽虚から生じる脾の冷え）（脾③-1）
- 夜間尿1～2回，以前から足は冷たいが，就寝後に異様な足先の冷感がある，ときおり腰痛・耳鳴りが起きる——腎陽虚（腎⑤-1）
- 最近，就寝後に時にほてり感が数分続く・口内乾燥感——水不肝木・陰虚火旺（腎⑤-2）
- 寝付きはよいが多夢・顔色が白い——血不養心（陰血不足による）（肝①-3）

【弁証】 肝旺乗脾・寒熱挾雑* *腎陽虚による冷えと，腎陰虚による熱が混じる。

【治法】 疏肝健脾・活血調中* *血流を活発にして胃腸を整える。

【処方】 芎帰調血飲（クラシエ）4.5g/日＋半夏瀉心湯（コタロー）1.5g/日
14日分処方

【経過】 X年5月21日：便秘・軟便の繰り返し，膨満感などの過敏性腸症候群症状が完全に消失したので廃薬とした。

【考察】

娘が遠方に嫁いだ寂しさがストレスとなり，肝旺乗脾によって脾虚症状である過敏性腸症候群が現れたが，処方を2週間服用して消失した。寂しさによるストレスで肝旺乗脾の症状である過敏性腸症候群は，芎帰調血飲の香附子によって肝経を理気解鬱，烏薬によって行気散寒温腎し，川芎・当帰・牡丹皮・益母草によって活血し，川芎・当帰・熟地黄によって柔肝し，白朮・茯苓・甘草・大棗によって補脾和中して肝旺を抑制した。半夏瀉心湯は少量投与であるが除痺除満の効果で，肝旺乗脾・肝鬱による気血不和と寒熱挾雑が改善された結果だと考えられる。

3-7 肝肺同病

肝の昇発作用は腎陰の涵養作用と肺気の肅降作用の影響を受ける。肺は肝を相克し，腎は肝を相生することで協調して調和を保っている。